

9条を守ろう!

みどり病院 総務課
宮城 正志

「9条の碑は訴える!全国交流会」に参加して

10月17日、東京府中にて開催された「9条の碑は訴える!全国交流会」に参加しました。最初は、「府中9条の碑」関係者による合唱からはじまりました。府中は、歌と9条を組み合わせて活動を行っており、定期的にコンサートをおこなって平和をアピールしています。第2部では、府中9条の碑の代表者の大学教授や、石碑のブロンズ像を作成した彫刻家やプチパークを設計した設計士、テーマソングを作成したシンガーソングライターが、設立秘話を話されました。これまでの9条関連・平和関連の活動をされている方や、合唱団など既存の積極的に活動をおこなっている集団をとりこんで活動にした事で、安定した建立運動ができ、コンスタントにイベントを開催できる体制を作っていました。第3部では、全国で建設を行った(計画中の)20団体が参加し、活動報告をおこないました。中には個人建設も3組ほどあり、民医連からは6組が報告しました。

交流会にて、みどり病院前の9条碑と、全国写真ギャラリー&ゆるり旅の紹介をさせて頂きました。翌日は、府中9条の碑の見学、杉並(高円寺)9条の家の訪問。府中の9条は、石碑だけでなく、プチパーク全体で9条をアピールしており、街に溶け込みながらも、楽しさを感じさせる空間デザインとなっています。9条の家では、代表の金野さんと仲良くなり、9条の碑活動や、金野さんが取り組まれてきた山梨での安保法制違憲訴訟原告団長の活動を、当時の判決時に着ていたTシャツと共に話して頂き、日米安保問題、現在のロシアとウクライナの戦争や、原発問題、沖縄基地問題など様々な話をしてくださり、資料や書籍を頂きました。今回の学びを今後の平和活動、9条の碑活動に活かし、発展させていきます。



プチパーク9条の碑

岐阜民医連では一昨年の11月、みどり病院前に9条の碑が建立してから、1年になりました。建設推進委員会では、親しまれ、平和の思いを発進できる9条の碑を目指して、写真スポットとしても呼び込みや、ピースマルシェの開催などをおこなってきました。1周年記念を前に院内で掲示紹介を10月~12月の期間でおこないました。各地のユニークな9条の碑をマンガ形式で紹介したポスターを作成して廊下に掲示。10月26日の健康まつりでは、スタンプラリーコーナーにすると共に、平和メッセージの寄せ書きや署名への協力をお願いしました。その後、書き込まれた平和メッセージも一緒に掲示しています。今回掲示に使ったマンガで各地の9条の碑を紹介するポスターのデータは、他でも自由に利用できるよう岐阜民医連が運営する9条の碑紹介サイト「憲法9条の碑 全国写真ギャラリー」からダウンロードできますので、ご自由に活用ください。



全国交流会



マンガで各地の9条の碑を紹介するポスター

楽しい輪を広げませんか?

各地域での班会は、楽しい時間を過ごし、健康につながっています。

桜台支部

毎月桜台公民館にてサロンを開いています。ポッチャ、歌、おしゃべりで交流し、毎回20名ほどの参加者です。歌の時間は、皆さんのリクエストに応じて、2名のギター演奏で歌います。1ヶ月に1回のこのサロンは、皆さんの楽しい時間となっています。



紅葉が丘支部

毎月1回、紅葉が丘公民館にて「ポッチャ」をおこなっています。ポッチャは、本格的なルールではなく、体と頭の体操になる、点数を競う方法で楽しんでいます。



北山・東山支部

毎月1回ケアハウスささゆりにて「モルック」班会を開催しています。毎回約10名程度の参加者で、とても楽しく交流し、盛り上がっています。



野村・和高支部

毎月第3火曜日に芥見のみどりの家(地域のたまり場)へ、看護部が順番に健康チェックへ行きます。健康チェックの後、地域の方と色々なお話をし、交流をし、楽しい時間となっています。



子ども食堂は広まっています・・・子ども達の現状は?

ながら梅子の家「子ども食堂」 長良支部 齊藤 恵津子

ながら梅子の家は、こども食堂を開設して11年目になります。子ども食堂は全国で12,601か所と増加しつつあり、10年間で国も行政も民間に押される形で支援をするようになり、子ども食堂のあり方を提示するようになりました。しかし果たして子ども食堂が抱える問題、子どもの貧困にどう向き合っているのか疑問に思います。すべてボランティアで担ってきた梅子の家の子ども食堂は、この先のことがとても不安です。



食事風景

①受け入れ人数の制約

(需要と供給のアンバランス)

夏休みの子どものたちは「孤食」「食の質」「つながり」の貧困に陥るので、この課題を何とかしたいと始めたのが、梅子の家子ども食堂です。まさに地域の要求はここにあり、「助かっている」という家族の声が多く申し込みが増えていきますが、高齢化するスタッフ・ボランティアの疲弊感も年々高まっています。

②子どもの変化(居場所として)

開設当初からコロナ前は全体で遊び(高学年リーダーがいた)指示なしでできました。コロナ後は(?)個々の動きが目立ち、習字や絵手紙、折り紙等の企画の中で



流しソーメン



皆で鬼ごっこ。じゃんけんポン!

③運営者とボランティアの共通認識の差

ボランティア会議の開催で、共通理解の努力をしましたが、社会活動としての「子ども食堂」のあり方を議論する事までに至りません。

④夏休みの子どもたちについて

この社会問題にこれまでボランティアアマかせできました。確かに様々な企業や個人の食材支援や寄付が増えて認知もされてきました。しかし「食」「居場所」について行政の取り組みに変化はなく、子ども達の状況は変わっていません。